

山田みやこの活動報告

令和元年10月9日(水)

とちぎ学生未来創造会議にて社会課題サロンを開催

会場 宇都宮大学 陽東キャンパス

ゲスト 中野 謙作氏(一般社団法人若年者支援機構理事長)

「地域に広がる子ども若者支援」

就労支援、経済的困窮者支援、ひきこもり、ニート、不登校、学習支援、子ども食堂などを実践してきた。その中で人口比6.5%いる発達障がいに対する受け皿がない。

「非正規雇用4割」一昔前の小中高卒業、大学進学後の正規就労は現在わずか4割。当たり前ではなくなっている状況。トラブルは山積みになっている。

しかし、制度や仕組みがなくてもどんな人がそばにいてくれる人がいるかだ。まず食べる、相談できる、学べる居場所があるかである。安心をつくる、ここに居てもいいよ、というメッセージが発信できるかだ。関係性の貧困で孤立を防ぐことが第一。まず助けてといえる相手を見つける。支える側は一人で支えず、周りの人と連携することが支え続けられることに繋がる。



ゲスト 土橋 優平氏(NPO法人キーデザイン代表)

不登校・若者支援を中心に活動

- フリースクール「ミズタマリ」開設
小中高生の不登校支援

不登校の原因はいじめが7~8割。

ミズタマリを利用する子の保護者は、ミズタマリに子どもがいる時間、自分一人の時間が取れるため心の余裕が出てくる。子どもが家族以外の人とコミュニケーションが取れる様になると希望が持てる。

- 相談対応・生活支援
親からの虐待、いじめ、万引き、自殺未遂、摂食障害、将来への不安など、どこにも頼れず孤立している子ども・若者の相談を受けている。

ひとりにならない社会をつくる **KEY-DESIGN**
NPO法人キーデザイン 活動紹介

代表より
NPO法人キーデザイン 代表理事 土橋 優平
子ども若者の「生きる」を社会全体で支える
その文化を広くむかひたい

私自身、小学生の頃に「生きる」との向き合い方の調べの道に
ギャンプを感じ、小学2年生から高校1年生の末まで、本音を隠して、自
分ではない自分をつくって生きてきました。
それを覚えてくれたのが、高校生の時にプログラムの出会った、本音で話してもすべて受
け入れてくれた先輩、仲間存在でした。そこから私は生徒会にチャレンジしたり、学内の
様々なプロジェクトに参加したりと、自分の感じたものをあまに表現できるようになりま
した。高校1年生の時に出会った「ありのままの自分を受け入れてくれる居場所」が私を変えて
くれました。私のように、偏見や考え方のギャップに苦しむ大人もいれば、家庭や学校の居場所が
合わない。自分の本音を隠して生きていく人が大勢います。そんな人が、自分らしさに気付き、
それを表現できる居場所をつくるために、キーデザインを立ち上げ、大学・高校や、企業・NPO
と手を取り合いながら、事業に取り組みしています。みなさん個人個人からの寄付も大切な経営資
源です。寄付が揃っていくことで支え合いの文化が育まれていくこと、だと考えています。みな
さんの思いを代わりに若者に届けます。ご協力お願いします。

活動概要
フリースクール「ミズタマリ」
私たちのフリースクールでは、子ども
が自分から「学校に行きたい」と思わな
い限り、学校復帰をゴールとはしません。
人と関わり、自分を知り、表現する、そ
んな生き方を学ぶ場が、私たちの運営す
る「ミズタマリ」です。基本的に勉強は
せず、ボードゲームや絵を描くことなど
を通してコミュニケーションを図ります。
スタッフの多くが大学生で、子ども達と
の距離が近く、きょうだいのように接す
ることができるのが特徴です。

相談対応・生活支援
家族、仕事、人間関係、精神病など、
様々な生きづらさを抱え、どこにも頼
ることができず、孤立している子ど
も・若者の相談に乗っています。必要
があれば、自立して生活するためのサ
ポートもしています。相談件数は、月
に20~40件、人数は20名程度。年齢は
16~28歳くらいが多いです。最近不登
校のお子さんを持つ親御さんからの相
談増える。

学生の声や相談事例はこちら

もっと知りたい方、相談のある方
キーデザイン 検索
080-1853-6296(代表直通)
info@npo-keydesign.org

寄付をしたい方
月々1,000円
でサポーター
になることが
できます
Sponsored by
坂田新聞店

※二人の話から

自立は依存することから始まり、依存先を増やすことで関わる人が増え、関わり方の役割が出てくる。関わる人(支援者)同士の繋がりができることで伴走支援ができてくる。制度や仕組みがなくても、いつでもそばにいてくれる人(中間のつなぎ役)がいれば安心感に繋がる、ということを実感した。